



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 41 号

2007.6.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

もくじ

おしらせ

ー高原の自然史 第 12 号を発行

活動報告

- ー大瀆山の春植物観察会
- ーサクラソウのお花見会
- ーブナ林のバードウォッチング

観察会案内

- ー壘山の植物観察会
- ー龍頭山の野鳥観察会
- ー霧ヶ谷湿原の植物と昆虫観察会
- ー霧ヶ谷湿原実験地の植生調査
- ー八幡湿原の植物と昆虫観察会

おしらせ

● 高原の自然史 第 12 号を発行しました

高原の自然館の研究報告、高原の自然史 第 12 号
を発行しました。販売価格は 2,000 円です。ただ
し、西中国山地自然史研究会の会員は、割引価格の
1,400 円で購入できます。高原の自然館でお求め下
さい。

もくじ

- 広島県北広島町長者原湿原堆積物の花粉分析
木村裕子・岡崎宏明・三好教夫
- 広島県北広島町におけるカワシンジュガイの棲息状況
内藤順一
- ブッポウソウの給餌活動の日周変化と餌内容
松田 賢・長谷川匡弘・上野吉雄
- 灰塚ダム建設予定地におけるコウノトリの採餌場所とねぐ
らの分布
上野吉雄・岩水正志
- 草地保全活動に伴う木質系バイオマスによる堆肥生産試験
山場淳史・白川勝信
- 芸北 草地シンポジウム 草地がつなぐ人・文化・いのち
ーシンポジウムと千町原保全活動の記録ー
白川勝信

今後の観察会予定

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 7月 8日 八幡湿原の植物と昆虫観察会 | 21日 寒曳山の植物観察会 |
| 29日 千町原草原の保全活動 | 11月 11日 紅葉の山でゴギの産卵観察会 |
| 8月 4日 千代田のオオサンショウウオと水辺の
生き物観察会 | 23日 千町原草原の保全活動 |
| 5日 世界最南限のカワシンジュガイ観察会 | 12月 2日 八幡高原の冬鳥&越冬する樹木の姿 |
| 11日 龍頭山の昆虫観察会 | 9日 冬の工作「小鳥を呼ぼう、かんじきで
歩こう」 |
| 9月 8日 雲月山の植物観察会 | 1月 20日 アニマルトラッキング |
| 17日 霧ヶ谷湿原の植生調査 | 2月 17日 スノートレッキング |
| 10月 20日 キノコの観察会 | 3月 9日 スノートレッキング |

観 察 会 報 告

● 大潰山の春植物観察会

開催日時：2007年5月3日(木) 9:30

講師：佐久間智子

ゴールデンウィークの真ん中、快晴の観察会は、6人のパーティーとコンパクトなものになりました。佐久間先生の観察会では恒例となった「植物の見分け方」、今回のテーマはスミレです。大潰山で見られるスミレのリーフレットを持って、登山口から出発しました。

登り初めてすぐに、オオタチツボスミレ、コタチツボスミレ、シハイスミレ、スミレサイシンと、次々にスミレが出てきました。それらを丁寧に観察していきますが、すぐには覚えられません。山を登りながら、とにかく見つけたスミレの名前を確認しながら進むうちに、少しずつ分かるようになっていきました。コチャルメルソウ、チャルメルソウ、マムシグサなど、形のおもしろい植物や、モモンガの食痕も確認できました。

道が急峻な中腹に差し掛かると、全く色が違うスミレが出てきました。確認するとアケボノスミレでした。また、ニオイタチツボスミレとフモトスミレも同じころに現れました。ニオイタチツボスミレは匂いがするというので、みんなで順番に嗅いでみましたが「匂った」という人と「分からない!」という人がいて、ワイワイ言いながら登りました。休憩を挟み、山頂にはお昼を少し過ぎたころに着きました。

山頂のツツジは全く開いていませんでしたが、腰掛けたまわりはアケボノスミレがたくさん咲いていました。独特の曙色と花びらの質感は、一度見たら忘れられないスミレです。山頂付近にはアケボノスミレ、ニオイタチツボスミレ、フモトスミレが多いようでした。まだ展葉していないカシワの林を抜けると、下りはとても急な道でした。まっすぐに下るので注意しながら下山しました。

スキー場が見える所まで降りてくると、ニョイスミレ(ツボスミレ)とタチツボスミレが見つかりました。これで、今回観察したスミレは9種類になりました。何気なく見過ごすのではなく、一つ一つを確認していくことで、なんだかスミレと仲良くなれたような気がしました。今回はスミレに注意しながら歩いたので

が、駐車場で観察したものをまとめてみると、ツクバネソウやエンレイソウ、ツツドリやトラツグミなど、色々なものを同時に見ていたことに気付きました。春の大潰山は、里山の要素が残る楽しい山でした。[し]



資料を手に出発!



早速スミレが現れた。これは何だろう?



茎があるタチツボスミレの仲間で、距が白いのはオオタチツボスミレ。



エゾユズリハの雄株。これから雄しべが成熟する。



ニオイタチツボスミレの匂いを嗅いでみる。



アケボノスミレがたくさん咲いていた。



山頂で記念撮影。少し霞んでいたが、遠くの山も見えた。暑くも寒くもなく、登山日和。



登りで見えたツツジは、このコバノミツバツツジ一輪だけ。

【みなさんの印象に残った物】

「いろんな植物があるんだなあ!」「アケボノスミレがたくさんありました。」「ニオイタチツボスミレの匂い。」「アケボノスミレ」

【参加したみなさんの感想】

「先生の説明を聞きながら、たくさん見ることができたので、すごくおもしろかったです。」
「人数が少なくて説明が十分に聞いたのが良かった。」
「来年もスミレの観察会として開いてはいかがでしょうか。」
「ツツジには早かったがスミレは昨年より多かった。」
「今まで逃げていたスミレに少し入れてよかったです。」
「たまにこうやって細かい植物の見分け方をやるのは良いと思います。」

観 察 会 報 告

● サクラソウのお花見会

開催日時：2007年5月6日（日）9:30

講師：サクラソウを育てる会

西中国山地自然史研究会としては、3回目となるイベントです。続けて参加されている方、はじめての方、地元の方など、17人が美和東文化センターに集いました。はじめに文化センターの中で自己紹介をして、下杉さんからこれまでの取り組みについてお話を聞きました。その後、地元の方達が増やしてきたサクラソウ園に向かい、花の様子を観察しました。去年は、八幡のクローンには無い特徴を持ったものが見られましたが、今年はさらに花が多様化して、クローン株の割合が減っているように感じました。自生地とクローンの遺伝子が交雑しているのかもしれませんが、疑問を残しながら自生地へ向かいました。自生地では、去年の伐採作業のことなどを聞きながら花の観察をしました。昨年よりも日当たりが良くなっていますが、目に見えての増加は確認できませんでした。自生地での変化は、今後、美和小学校の子供達が調査していく予定です。はじめはサクラソウを観察していたのですが、いつのまにかサクラソウの保全について議論がはじまり、サクラソウそっちのけで話し込む場面も見られました。

両方での観察を終えて美和東文化センターに戻ってから、3班に分かれてグループ座談会をしました。テーマは「サクラソウの保全と活用」です。各班の意見をまとめてみると、サクラソウを取り巻く問題や、解決策が浮かび上がってきました。一つの結論は、まだサクラソウについて知らないことが多いので、専門家に来ていただき、お話を聞こう、ということでした。話しは尽きませんでした。空腹を覚えて時計を見ると13:00になろうかという時間で、余韻を残しながらお開きとなりました。[し]



サクラソウ園でサクラソウの様子を観察した。



これまでの苦労やこれからの計画を聞いた。



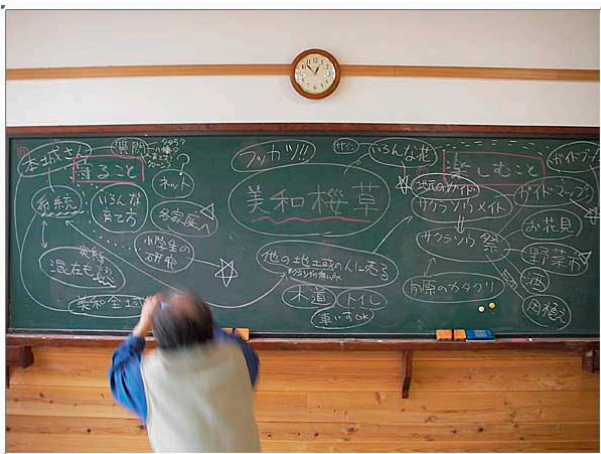
自生地に移動して「美和のサクラソウ」を観察。



自生地にはいろいろな種類の花が見られる。今年もたくさんの花が咲いた。



再び、美和東文化センターに戻ってまとめをした。いろんな話し、それぞれの想いが交わされた。



いろいろな意見が出てきた。

【みなさんの印象に残った物】

「サクラソウの色や形が多様で 魅力的であることを、改めて認識しました。」「サクラソウに一言に言っても本当に色々な変化があることを、みるのができた。」「自生地のサクラソウを見られたこと」「サクラソウの可愛らしさと、みんなでワイワイ楽しく有意義にお話し合いができたこと。」「いろんな人の意見を聞いてみて”皆さん色々なことを考えているなあ”と思った。」「みんな理解があった。」「皆さんがサクラソウのことを、とても深く考えられていることに驚きました。」「黒板での意見集約、とても良かった。」「美和地域の人々の思い、サクラソウや自然を大切に思う人々の思いの強さをとても感じました。」「初めて参加させて頂きました。今まであまり系統とか守るとは?・・・などあまり考えていなかったので勉強したいと思いました。」「自生地で実際に違いのある群落が見られたこと」「畑のサクラソウがいろんな形になっていたこと。」「系統を守ることの難しさ」

【参加したみなさんの感想】

「今年で三年目の観察会になりますが、年ごとに話題が増えサクラソウへの関心が高まってきたのが嬉しいことです。」「楽しむことの意見を聞かしてもらったので、地域の活性化に活かしたい。」「地元の方々のサクラソウに対する想いの強さに驚かされました。」「地元の方が系統のことにも、関心を持っていることがわかり、安心した。」「中身が濃かったですね!! 色々な収穫がありました。」「サクラソウを広めたい。」「絶対に守りたい。」「今日初めて参加しました。サクラソウの可愛らしさに惹かれて育てたりしていますが、自然の中で育っているのを見に行くのがいいですね。」「守りながら楽しみながらサクラソウの取り組みを進められたらと私も思いました。本城さんの話を聞くことが新たなスタートの一歩になると思います。」「地域の人たちの守るための活動に心からエールを送りたいです。私にできることは何か考えています。」「地域の熱い思いに触れ、協同して自生地保全に努められたらと思った。子供たちと一緒に同じテーマで話してみたい。」「まとめでは、色々な意見が出て、人がいるほど知恵がでるのだなあと思いました。」「多くの意見考え方を、聞いたことが良かった。」

観 察 会 報 告

● ブナ林のバードウォッチング

開催日時：2007年5月13日（日）5:00

講師：上野吉雄

心配された前日の雨はすぐ止み、気温も10℃と「暖かい」と思って出かけたのですが、苅尾山の上は強風で、寒い寒い観察会でした。

まずはマミジロがさえずっているのを長時間観察しました、マミジロは1000m以上のブナ林に夏鳥として渡来し、ここ4・5年は毎年やってくる鳥だそうです。「チョボイ、ツルリー」と一声ずつ鳴くのが特徴だそうです。ヒガラ、クロツグミを見た人もいたようですが、ほとんどの人は鳴き声だけを聞きました。場所を変えて今度は雪霊水より車道を下りました。「青いのを見に行きましょう」と誘われて行くと、コルリの鳴き声を聞きましたが、姿はみられません。現れたマヒワの群れは、今から朝鮮半島経由でシベリアに帰る冬鳥だそうです。オオルリ・キビタキも鳴き声だけで残念でしたが、ミソサザイは今年も目の前でさえずってくれました。その他観察したのは、シジユウカラ・ゴジュウカラ・（声のみ）アカショウビン・ウグイスでした。

鳥の観察会ではマイクを使うわけにもいかず、早朝のため気温も上がらず、なかなか大変でしたが、その分色々な鳥に出会えました。[や]

今回は集合時間の連絡ミスがあり、遅くに到着した方々にはたいへん失礼しました。



ポイントへと移動中も、カラ類の鳴き声が聞こえてくる。



ゴジュウカラ・シジユウカラ・ヒガラの鳴き声を聞く。カラ類は巣穴探しをめぐり熾烈な戦いがあるそう。



冬鳥であるマヒワの生息地域を図鑑で確認。越冬地域、繁殖地域がちがう。



「あ、あそこにいるよ!」とお互いに教え合う。



モモンガが食べた残した葉。道のところどころに落ちていた。



体がミソ色のミソサザイ。とても小さな鳥だが、鳴き声はわりと大きく、長い間さえずりを披露していた。



フィールドスコープをのぞき込むと鳥の姿がよりよく分かる。



【みなさんの印象に残った物】

「間近にミソサザイを見たこと。」「マミジロの姿と声。(4)」「コルリの声を確認。」「ここでしか見れない鳥が見れたこと。」「マミジロ・マヒワ・ミソサザイなど「ハッキリ」見えすぐよかった。」「新緑。」「マミジロ、コテングコウモリ(2)」「最後にミソサザイがよく見れました。マミジロのまゆ毛も印象的でした。」

【参加したみなさんの感想】

「さえずりがすごい。」「寒かったが楽しかった。」「寒かった…。(5)」「朝早くからですが、鳥についていろいろ教わり、いろいろな声を聞き良かったです。」「寒かった。5月とは思えないほど。」「寒かったけれど、久しぶりに来て良かったです。」「今日はいくつか鳥の声を覚えられて良かったです。前半解説が聞きにくかったのが残念…。」「上野先生の説明は面白かった。」



こちらは鳴き声の方向を検索中。集中しています。

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 畳山の植物観察会

開催日時：2007年6月3日(日) 9:30
集合場所：瑞穂ハイランドスキー場
講師：斎藤隆登、佐久間智子
準備：基本セット、弁当
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

瑞穂、大朝、芸北の境にある畳山に登りながら植物の観察をします。畳山は明治時代まではたたら製鉄のために砂を採る山でした。その掘り跡から流れ出る砂を止めるために、昭和後期に作られた砂防堰堤は、既に埋まっています。今回は瑞穂側から山頂まで登りながら観察をします。

● 龍頭山の野鳥観察会

開催日時：2007年6月10日(日) 6:00
集合場所：道の駅 豊平どんぐり村
講師：上野吉雄
準備：基本セット、双眼鏡、フィールドスコープ
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

豊平にある龍頭山の山頂部には、小さいながらもブナ林が残っています。標高や単独峰であることなど、芸北にあるブナ林との違いは、どのように鳥類相に現れるのでしょうか？広島市内からも比較的簡単に来られる場所です。北広島町は広いですね。

● 霧ヶ谷湿原の植物と昆虫観察会

開催日時：2007年6月23日(土) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：和田秀次、岩見潤治、白川勝信
準備：基本セット、弁当、双眼鏡
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

自然再生事業が進められている霧ヶ谷湿原で、植物と昆虫の観察をします。霧ヶ谷湿原の再生工事は、2007年から始まります。従って、再生前の湿原の姿を見られるのは、今年が最後になります。しっかりと色々なものを見ておけば、再生の様子が分かって楽しいと思いますよ。

● 霧ヶ谷湿原実験地の植生調査

開催日時：2007年6月24日(日) 9:30
集合場所：高原の自然館
準備：作業セット、弁当
定員数：30名
参加費：無料

2004年に水路を設置した実験地の植生が、どのように変化しているかを調査します。初めての方でも、どうぞご参加ください。

● 八幡湿原の植物と昆虫観察会

開催日時：2007年7月8日(日) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：和田秀次、岩見潤治
準備：基本セット、弁当、双眼鏡

カキツバタが満開です。春の冷え込みで、新芽が霜にやられていたので心配しましたが、どうやら杞憂に終わったようです。ただ、遅くまで黄砂が降ったり、突然強い雨が降ったり、そうかと思えばスッキリ晴れて暑くなったりと、何とも不思議な天気が続きます。花のことを心配するよりも、人間が体調を崩さないように気をつけないといけませんね。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info